

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
教育部会長 若 林 克 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

教育部会のお知らせ (第345回)

日時 平成30年10月26日(金) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第一議院議員会館 地下1階 第6会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、
永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、
午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時
刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付
脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、
受付に「第6会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎え
にまいります。

- 議題 1、最近の高等教育改革について思う
挨拶 若林克彦部会長(国士舘大学元学長)
2、要請書テーマの絞り込み(前回未検討の部分)
解説 若林克彦部会長

報告 去る9月21日開催の、第344回教育部会は、若林克彦部会
長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最近
の高等教育改革について思う」と題して挨拶がありました。要請
書テーマを検討するにあたり、教育再生実行会議や中央教育審議
会がすでに検討しているテーマと重ならないようなテーマを選
定していきたい。例えば、大学運営における学長を頂点とした構
造改革や、ICTを活用した理系の人材育成、奨学金の問題など
は、すでに実行会議の提言後法律改正が行われているため、提言
を出すとすれば論点から外す。

次に、各委員の提出した夏季課題の説明と意見交換が行われました。○「高い技術力と共に発想力、経営力などの複合的な力を備え、新たな付加価値を生み出していく理工系人材の育成が必要」というが、具体的にどのようなカリキュラムでそのような人材を輩出できるかについては言及がない。質の向上をどうするかが問題だ。○今までの日本は、終身雇用制度を前提とし、企業内教育で人材育成を行ってきた。一方、OECD諸国で25歳以上の大学進学率が世界最下位という数字が示すように、欧州型の転職を繰り返すたびに学び直して、新たな技能を身に付けて年収が上がっていくという社会構造にはなりえなかった。産業構造の転換と共に、2つ3つの大学院を卒業して当り前の社会構築も検討に値する。○単位の取りやすさで授業を選んでいる学生も多いようだ。単位制の見直しに言及している提言はなさそうなので、卒業試験の導入と併せて学修評価の見直しを提言してみてもどうか。○大学の役割を研究・教育・地域貢献の3分化する提言が出たことがあったが、現場の反対でとん挫した。そこで、大学に対する競争的資金に形を変えて導入することとした。○学び直しに関連して、高齢者向けの通学型教育機関を設けてはどうか。日本では75歳を境に認知症の罹患率が急上昇し、孤独死も最近増えている。通学し、会話するだけでも認知症の予防になり、何か発表の機会を設ければなおよい。○専門職大学については、施行が来年の予定であり、数年たって制度がどう評価されるかを待たないと、専門学校との差別化が図られたかどうかの検証は出来ない。

★資料代 会員は**五百円**に ご協力御願ひ申し上げます。

次回、10月26日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。非会員で

参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

（その場合の当日会費は二千円となります）

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620